

# 研 究 紀 要

## 地 理 歴 史 科 公 民 科 部 会

講 演 「新科目「公共」の授業作り」  
明治大学 文学部 特任教授 藤 井 剛

情報提供 「地理歴史分野における新教育課程と新科目の評価を含む実践について」  
青森県総合学校教育センター 高校教育課 指導主事 柴 田 裕 介

研究発表 【日本史分科会】 「  
」

青森県立七戸高等学校 原 郁 美

【世界史分科会】 「『歴史総合』における指導と評価の一体化に関する実践考察」

青森県立三戸高等学校 赤 井 翔 太

【地理分科会】 ① 「1人1台タブレット端末導入初年度の授業実践について 『地理A』 」

青森県立五所川原農林高等学校 舘 田 智久子  
」

② 「地理総合の授業実践 ―地理と歴史・地域を総合する「防災」について―」

青森県立弘前中央高等学校 石 戸 康 幸

【公民分科会】 「公民科授業のICT活用」

青森県立青森南高等学校 沼 澤 豊 起

紀要編集委員 氣 仙 祐 禎（青森県立七戸高等学校）  
澤 田 明 宏（青森県立七戸高等学校）

# 地 理 歴 史 科 ・ 公 民 科 部 会

## 講演

### 「新科目「公共」の授業作り」

明治大学文学部特任教授 藤井 剛

#### 1 自己紹介

こんにちは。明治大学の藤井と申します。よろしくお願いします。

今日は新科目『「公共」の授業作り』という演題としてお話しさせていただきます。ただ、皆さん恐らく公共など新科目の授業準備どころでなかったのではないのでしょうか。どこの都道府県で話をしても、そんなことをしている暇が無い、評価だ、三観点だ、ほとんどがその準備に費やされ、授業実践・準備ができなかったのではないかと思います。

昨年度そのことに危機感を持ち、各都道府県の知り合いに「公共の授業準備はしているか」と聞いたのですが、公共の授業実践事例を集めていたのは千葉県と福井県の県教委だけでした。

そんなことで、皆さんは今、公共の授業準備でご苦労されているのではないかと思います。

最初に自己紹介をします。千葉県の公立高校教員を32年やった、大学教員としては変わり種の人間です。そのうち29年間政経しかやることがない、政経プロパーです。政治・経済の参考書を出しています。現職時代からNIE・新聞を使った授業やビデオを使った授業、アクティブラーニングに関心を持ってきました。法教育にも関心があり、法と教育学会の理事もさせていただいています。

主権者教育アドバイザーという役職を総務省から指定されています。選管を通じて申し込んでくれれば、全部国が費用を持って私が派遣されるので、うまく活用してください。

また、選管主催で高校生模擬議会というのをやっています。人口や農林水産や観光など、青森県の課題や解決策を高校生が考えてプレゼンをやる、そういう取り組みです。他県と違って、県議会議員の前でグループワーク・プレゼンをやるのが青森県の特徴です。学年全体のグループワークのファシリテーターをさせていただいています。

青森県の明るい選挙推進協議会が出している「ボーダーズ」という冊子があるのですが、各校に1冊ずつ届いているかと思います。45号に青森県の取り組みを取り上げているので、参照してください。県議会場で正副議長が司会をしてくれている写真が載っています。

#### 2 「公共」とはどのような教科か

公共について、実を言うと、まとまった本はほとんどありません。明治大学の坂を下ると、世の中で一番大きい本屋の一つである三省堂があるのですが、そこの棚でまとまった公共の本は『「公共」の授業を創る』橋本康弘編著 明治図書 この1冊です（歴史総合・地理総合の同シリーズもお勧めです）。

授業実践例は『「公共」の扉」をひらく授業実践例集』東京都公民科 清水書院と『考える「公共」70時間』全民研 清水書院の2冊です。前者は大項目Aに特化した内容、後者は全分野を網羅していますが、実践を活字にしたものもあるものの、半分は実際にはやっていないので、参考程度でしょうか。

会場の先生方に質問をします。今、公共の授業を担当している先生は挙手してください。

Q. 公共と現代社会をどこで差別化しようとしていますか。

A. 言語活動を重視されているので、事実の伝達というよりはテーマについて考える場面を増やすようにしている。

Q. 一学期を振り返り、困ったことはありますか。

A. 今までと単元の順番が異なるのでつなげ方をどうすれば良いか、言語活動をやるに当たってもテーマによって限界があるなど、手探り状態です。

授業の構造が現代社会とは異なるので、やりづらはさがあると思います。また、テーマによって討論やディベートに合わない、難しいものがあるので、すべてその手法では難しいかと思っています。

ここで公共とはどんな教科か、ということをおさらいさせてください。

公共はABC 3つの大項目で構成されています。A「公共」の扉 B法律、政治、経済（3分野にわたって13テーマが示されています）C課題学習、これがまず大きな項目です。それぞれ詳しく見ていきます。

Aは概念や理論を学ぶ時間です。概念や理論をBやCで使えるようにしていきましょう、というのがポイントです。例えばダムを造るなどの公共事業について、ダムを造ることが皆の幸せになる、功利主義的な考えができます。一方で環境破壊につながる、将来世代の環境について考えなくてはいけない、義務論あるいはロールズの正義論などを学びましょう。あるいは憲法的な価値などを学びましょう、というのが大項目Aになります。

大項目Bでは、13テーマが学習指導要領上は示されています。職業選択、消費者の権利、法的主体・裁判員裁判などです。挙げられているものは例示で、13以上でも問題ありません。それぞれのテーマに対して問いをつくり、Aで学んだ概念や理論を使って解決するような活動が大項目Bになります。職業選択を学ぶときに、どんな問いを立てるかが我々の仕事になります。例えばやりがいのある仕事が良い、収入が多い仕事が良い、社会貢献をする仕事が良いのか、どの仕事が良いのか考えさせることになります。

大項目Cで最後に何をするのかというと、今まで学んだメソッドを使って、自分で課題を見つけて課題探究学習をしよう、ということです。Bでは教師が課題を与えても良いが、Cでは課題を見つけることから高校生にさせてください、ということになります。A習得B活用C探究学習の順番で学んでください、という構造になっています。ですから、順番を変えるのはなし、ということです。Aで原理原則を学び、使えるようになってから自分で課題を見つけていくようにしましょう、ということです。

私も教科書を執筆していますが、順番は守っています。崩してしまうと検定は通りません。ただ、実際の教科書がそのような配列になっているかというと・・・難しい部分もあります。野心的な教科書をつくろうとしたところ、即座に営業サイドから止められました。現場の先生はそうしたことは望んでいません、と。もう少し現代社会に寄せてください、と言われました。テーマ学習は折り込んでいますが、残りの部分はいままでとニュアンスが似ているかな、と。今日、「公共」の教科書を持ってきてもらった理由はそこで、現代社会の教科書とどこが違うのだろう、という教科書が結構あります。

### 3 「公共」の授業づくり

ではどうやって授業をつくるのか、公共2単位、理論・原則では70時間です。文科省では、大項目Aでは10～15時間、大項目Bは1テーマおよそ3時間×13テーマ＝39時間。ただ、アップダウンがあっても良いと言っています。ある項目では1時間、あるテーマでは5時間でも良いです。5時間あれば調べ学習をさせたり、ディベートができます。今回の指導要領のキーワードの一つである、カリキュラムマネジメントが背景にあります。

以上が文部科学省の公式見解ですが、当然のことながら、先生方の興味・関心や専門分野がありますので、なかなかそうはいかないと思います。私の教え子で千葉の公立高校の教員は、1学期かけて大項目Aが終わっていないと言っていました。

また、授業内でアクティブラーニングを使っただけ、というのが建前です。ちなみに、文科省がアクティブラーニングから「主体的・対話的な深い学び」に言い直した理由は、当時「アクティブラーニング」という言葉が一人歩きしてしまったんですね。そこら中に「アクティブラーニング」が付いた本が平積みされました。立ち読みすると、3分の2は火を付けて燃やしたくなる内容でした。悪口として「アクションラーニング」を推進している本でした。生徒を動かせばアクティブラーニングだと思っているんです。

ある県で拝見した研究授業がありました。普段はプリント穴埋めの授業をしていると想像できるベテランの先生でした。「今日は皆さんに、死刑制度の是非について討論会をやってほしい」と。ところが用意していた資料を配付するんですね。黒板の左側に是、右側に非、ご丁寧に空欄がある。先生が教えたはじめ、25分くらい講義をする。残りの15分で各班討論会をして、班ごとに発表、チャイムが鳴って授業が終わりました。指導助言者の私は激怒しました。確かに生徒は動いているが、頭は全然動いていません。話し合うのが目的ではなく、新しい考えやメソッドを得るためにグループ活動をするわけです。先生が教えたことを各班オウム返しに繰り返しているだけ。仮にあの授業を成立させるのであれば、半分は教えてもいいけど、残りの半分はコンピューター室で調べさせて、まず自分の考えを固めなさい、と。そして、是と非に分かれてジグソー法で話をしていく、ということが考えられます。胸が痛い先生がいたら許してください。

ということで、文科省はアクションラーニングと間違えられてしまって、あわてて言い換えた、というのがささやかれています。

ラーニングピラミッドというよく使われる図があります。講義は5%くらいしか覚えていないが、他の人に教えた場合には90%くらい残っている、ということです。学者は嘘だと言うけど、先生方は経験的に近い数字だと思いませんか。先生方は生徒相手に毎年同じ話を話しているので、フレッシュな高校生を相手にできるわけです。記憶力が良い高校生と競争して、勝てるわけがありません。ラーニングピラミッドの図は、私は正しいと思います。

アクティブラーニング実施上の注意事項として、5点挙げました。

「A 50分間すべて動かす必要はない」と思います。どうしても我々は大討論会をしなくてはならないと構えますが、そんなことはないと思います。きちんと頭を動かすような問題を一つやるだけでもよいと思います。日本で一番短いアクティブラーニングの授業ということで、授業の最後5分間で生徒に対して「さあみんな、今日の授業のポイント」を1分間で隣の人に伝えよう」と投げかけて2分間考えさせる。2分間で生徒は教科書やノートで一生懸命調べる。隣の人に1分間で説明させたあと、よく分かったと思ったらサインをしてもらう。それが平常点、今度は反対の生徒が行う。1年間やったら定着率が全然違います。友達に説明しなくてはいけないので、授業中も一生懸命聞きます。何がポイントか考えながら聞きます。大阪の府立高校の先生は、授業の最初に「前の授業で一番大事なことは何だったか」と前時の復習をさせていました。俺の授業よりレベルが高い、と思いました。ただ、彼の学校は学力が高いので、前時の復習ができる、と負け惜しみを言っておきます。

「B 『身体を動かす』のではなく、『頭を動かす』活動である」頭を動かす、というのがキーワードだと思います。先生方は、夜寝ている間に「これはいい質問だ」と思いつくことがありますか？私はよくメモをしています。生徒に考えさせる質問がいくつかあると良いですね。彼らも授業で楽しめると思います。

「C 1回の授業で実践(完結)しなくてもよい」5時間かかることがあってもよいと思います。私は中学校で教わったことは高校では教えないことで、スリム化を図っています。だから相当な時間が浮きます。1学期の中間考査までは政治分野をバリバリと進んで、そのあと突然15時間くらいディベートの時間になる。2学期は前半に経済分野をバリバリとやったあと、政治と経済の知識がついたから、例えば「政党をつくろう」とマニフェストをつくらせて、公約の論争をさせる。10時間以上を使ってアクティブラーニングをさせたりしていました。そういう意味で、カリキュラム・マネジメントは必要だと思っています。

先ほど、中学校時代に教わった内容というのは、「D 『知識・理解』が前提と考えられがちだが、特に小・中学校の学習内容と重複する部分は、『活動しながら』知識・理解を獲得させることもありうる」です。先生方、中学校の教科書を読んだことがありますか。是非、見てください。もう、中学校3年生の公民の教科書を読むと、「俺は今まで高校1年生の現代社会で復習をやっていたのか」と胸が痛みます。「ここも教わったよね」とやると半分くらいになります。ただ、もちろん生徒は忘れていることはたくさんあるので、まとめプリントや確認テストをやるなど、そうしたフォローは必要なのでしょうが、是非、中学校の教科書は見てください。学ぶことはたくさんあります。

「E 深い学びの鍵として『見方・考え方』を働かせることが重要になる」アクティブラーニングというと、「主体的・対話的な」という部分はわかりやすいのですが、「深い学び」は難しいんですね、先ほど「頭を動かす質問」という話をしましたが、まさしくそこが「深い学び」のキーワードではないかと思います。「深い学び」とはなんだろう、とずっと考えていましたが、「複数の見方・考え方を使って問題を解決する」ということがその一つではないかと思います。例えば需要・供給曲線と外国為替市場のしくみ、その原理原則を教わり、理解した後で、日本の銀行の金利が1%、アメリカの銀行の金利が10%だったら、円高・円安のどちらにシフトするのか、と考えさせるような問題です。

面白い授業とはいくつかに分類できると思います。ワハハ、と笑ってしまうもの、もう一つは知らなかった知識を得る面白さ、あともう一つ、ぜんぜん違うと思っていた知識が実は結びついてしまっている、というもの。例えば、生徒は「戦後の三大改革」と「高度経済成長」は知識として持っています。実はその二つは関連があるわけです。ざっくり説明すると、なぜ日本が戦前に中国や満州に進出しようとしたかということ「国内市場は狭い」という認識があったわけです。それで戦争になった。ところが、戦後の三大改革で、日本の人口はそんなに少ないわけではない、それまで購買力が無かった小作人が購買力を持ってくる。労働争議やストライキで賃金が上がり、労働者がものを買える余力が出てくる。財閥解体で新しい産業、起業が増え、小金持ちが出てくる。そうして国内で購買力が増えていって、それが高度経済成長につながる。私が高校生の頃、そのバラバラの知識が結びついたとき、えーっと思いました。すごく面白くて、

だから政経の教員になってしまったのかもしれませんが。面白い授業のもう一つ、自分で調べて納得したときの面白さ。これが一番レベルが高い。だから私は調べ学習やレポート作成が好きです。というわけで、アクティブラーニングをやる、というのが「公共」のキモの一つになります。

「公共」の授業では、今まで以上に外部との連携をしろ、と指導要領に書いてあります。「教科横断的」とありますが、家庭科もライフステージの中で18歳成年を扱う、我々も18歳成年を扱う、だから打ち合わせがないといけない。家庭科では一番最初にライフステージを学びます。生まれてから、18歳になり、契約、選挙権、労働契約をしたり、家を買ったり、子どもが生まれ、年金をもらい……といったことを家庭科で考えさせます。随所で我々とバッティングをする。18歳成年というキーワードで、家庭科の先生と公民科で教材をつくろうと努力しているところです。

「人的又は物的な体制を確保する」例えば弁護士を授業に呼んだことはありますか。私は千葉で法教育研究会を立ち上げて、高校の先生、弁護士、裁判官、検察官で1月半に1回くらい集まっています。2時間は真面目な議論をしたあと、「夕食」と称して、軽く飲みながら話をします。先生方が、「今度模擬裁判をやるのですが、来てくれませんか」「おお、行く行く」弁護士は教えたがりだということを初めて知りました。そういう弁護士が集まって法教育委員会というのがあります。それをパイプにすると、お金なしで結構来てくれます。県弁護士会がお金をプールし、学校に行った弁護士にお金をあげるシステムを作っているところも増えてきました。弁護士も自分の事務所に対して「無償ではない」と言い訳が立ち、来てくれやすい。予算はネックにはなりますが、タダでも来てくれますし、弁連などを使うのも手です。我々はどうしても外部との連携は嫌いますよね。私もそうでした。認めます。自分の授業に土足で踏み込んでくるのは嫌です。ただ、専門家を入れることによって自分の授業の質が上がるのが分かります。先ほど挙げた、法教育委員会で私も時々指導案を上げるのですが、ガンガンに叩かれます。見るも無惨です。

先日も私の指導案だけで40分くらい言われて、それを若い先生にも見られています。外部の専門家のアドバイスは絶対に必要だと思います。ODAを企画させよう、という授業をやったことがあります。インドネシア、ベトナムなど班ごとにテーマを与え、プレゼンを5分くらいでやらせました。審査員にはJICAのその国の担当者を連れてきました。向こうも来たいんです。やっぱり専門家のアドバイスはレベルが違います。生徒は結構良いプレゼンをしました。幕張のJICAの大きな図書館があり、90%英語の文献ですが、各国の専門誌が揃っています。そこに通って調べさせたプレゼンでしたが、「それはもうやっているから」「発想は良いけど、こういうところが足りないから」とピシッと言ってくれます。

それから、きちんと資料を使ったプレゼンをさせなさい、というのも大事な要素だと思っています。資料活用能力です。我々はどうしても資料を与えやすい。アクティブラーニングとは、結局我々が言いたい気持ちをどれだけ押さえることができるか、ということだと思います。彼らが良い資料に当たるまで、じっと我慢する（ちょっとくらいアドバイスはする、交通整理はしてやる）。ただ、メディアリテラシーをつけるのは我々の仕事。彼らの家では新聞は購読していなかったり、購読していても1紙か2紙。そうすると、そうした傾向になってしまいます。それを崩してやるのは我々の仕事です。

我が家ではずっとY紙でしたが、それをずっと読んでいると、日本ではスポーツは野球、球団も1つがメジャー。ところが私は中学校でサッカーを始めたのですが、野球以外のスポーツもある。世界の動きもぜんぜん違うんだ、と。そこで父に頼んで、新聞を替えてもらいました。最高裁の判決が出された日、駅のキヨスクに並んでいる新聞の一面トップの見出しを見ると、みんな違っている。ある新聞では「原告側全面敗訴」ある新聞では「国が全面勝訴」主語が違う。うちに帰って、両親に新聞を比較したいからたくさんとりたいて頼んだら、OKをもらいました。朝日、読売、毎日、日経、産経、千葉日報、赤旗、自由新報……20紙くらいとりました。あの時の衝撃、こんなに伝え方が違うのなら気をつけなさいといけな、今でも必ず2紙以上、6か月で定期的に替えています。家計が厳しい場合には、学校でとっていない新聞を自分で購読する、教員側もメディアリテラシーを鍛える必要があると思います。

「公共」では、問いを立てることが大切ですが、学習指導要領解説にはたくさん例が挙げられています。大項目A「社会に参画し、他者と共同する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる考え方にはどのようなものがあるか」、大項目B「契約が対等な当事者の自由な合意といえるためには、どのような条件を満たしていなければならないか」、大項目C『「少子高齢化に伴う人口減少問題」を扱った探究活動の展開例』など。

問いについては、高校生が持つであろう「日常的な疑問」でよいと思います。「私たちの民意は議会にどのように反映されているのか」「なぜロシアはウクライナに侵攻するのか」など。学期はじめなどに、生徒にアンケートをとるの

もよいと思います。

「共有地の悲劇」「トロツコ問題」や「四人のジレンマ」などの思考実験をやりなさい、とも書いてあります。最初に大項目Aで原理原則を学びますが、それを使えるようにしないといけない。いきなり現実世界に反映させるのは難しいので、トロツコ問題で練習してみよう、と。そのために思考実験が用意されているようです。「公共」学習指導要領作成の立役者である土井正和京都大学教授から伺いました。

先生方がお持ちになった学校で使っている教科書と、資料として教育図書の一部をプリントしていますが、見比べてください。

…ということで、時間が無いので問題提起程度で終わりますが、教育図書の教科書はすごいでしょ？調べたら青森県の採用は1でした。面白いから採用する学校は結構ありますが、これを使って授業するのは相当な実力が必要です。私の友人（歴史専門）が再任用先の学校で公共を担当しました。教育図書の教科書を使っているようで、私に「これどうやって教えたらいいいんだ」と聞いてきました。「おまえには無理かも」と言ってしまいました。この教科書の中の、使える部分を参考にするのが良いのではないのでしょうか。

#### 4 実践事例の紹介

私の教え子が作った、学習指導案をご覧ください。授業も見に行ったのですが、「あいつこんなに優秀だったんだ」と思いました。授業のテーマは「法が公正なルールとして備えるべき特質」、彼女の出した問いは「日本はポジティブアクションを推進すべきか」です。授業で使う原理、見方・考え方は「功利主義」「リバタリアニズム」「格差原理（ロールズ）」「男女共同参画」です。最初に、「日本はポジティブアクションを推進すべきか」という問いを生徒に出します。次に、別紙の資料で日本ではどのくらい男女格差があるのかを読み取らせませう。そして、クラスを功利主義、リバタリアニズム、ロールズの3グループに分けます。グループごとに、自分が功利主義の立場なら、ポジティブアクションを採用すべきかということを話し合います。その先はジグソー法。自分の考えを小論文・レポートにして出させる。衝撃を受けました。完璧に「公共」のメソッドそのものです。学力的には真ん中くらいの学校ですが、生徒はすごく喜んでやっていました。このようなものが大項目Bの授業事例です。これだけ資料があれば「やってみようかな」という気持ちに、いや、先生方ならやれます。少しくらい失敗しても、チャレンジして欲しいと思います。

もう一つ。「公共」サンプル問題を資料として添付しました。p4, p5に問3があります。（「フードドライブ」についての問題）これも、見方・考え方を使って解く問題です。p8, p11の問3、問4なども良い問題です。これは「公共」が共通テストでどのように出題されるかという、去年公表されたサンプル問題です。今年の秋に第二弾が出るようです。注目したいと思います。ただ、このサンプル問題には、問いが明確に出ていないのが不満です。探究的な要素がちょっと少ない。（駒場東大前にどのような人が巣くっているか分かりませんが）まだ公共に慣れていない出題者だな、と個人的には思います。数年後の本番にはもう少し問いかけが明確に出てくるだろうな、そうでないと「公共」の趣旨に合いません。

もう時効だからお話をしますが、先ほどの公共の立役者である京大の土井先生が、「必修3教科（歴史総合・地理総合・公共）を共通テスト1科目として出題することはありか、元現場の教師としてどう思うか」と聞いてきました。せっかく必修3教科が揃ったので、そういう1科目もあってもいいですよ。ああ、土井先生はそういう気持ちもあって戦っているんだ、とその時思いました。ですから、駒場東大前の人たちが、もっとそっち寄りの考え方の人が多くなると、この問題は変わってくる、逆に変わってくれないと困るな、と思っています。

以上、脱線が多いので最後まで終わらせませんが、あとは資料を見ていただければと思います。本日はありがとうございました。

## 「地理歴史分野における新教育課程と新科目の評価を含む実践について」

青森県総合学校教育センター 高校教育課 指導主事 柴田 裕介

### 1 はじめに

青森県総合学校教育センターの柴田と申します。主に地理総合や歴史総合の実戦に向けての情報提供です。今年の3月まで八戸高校に勤務しており、4月にセンターに異動になりました。私自身も地理総合や歴史総合の実践はしていないのですが、簡単に各科目の特徴を説明していきます。

### 2 新科目の実践にむけた参考資料

(1) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』東洋館出版社 2019

(2) 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一本化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校地理 歴史】』東洋館出版社 2021

どちらも書籍、PDFでもダウンロードが可能です。まずは解説を読み込むことから始まるのではないのでしょうか。学校に帰ってから活用してください。

(3) NITS 独立行政法人教職員支援機構『新学習指導要領 NO. 63：新学習指導要領の改定のポイントと学習評価（高等学校 地理歴史科）』

ただ、現場では時間に追われて、解説を読み込む時間もないかと思います。NITSで動画を公開していますので、そこらも紹介します。校内研修などで目線を合わせた上で、学習評価についての教科会議を持つことができれば良いのではないのでしょうか。ご活用ください。

(4) 藤野敦・中嶋則夫・空健太・飯塚秀彦・磯山恭子編著『高等学校 地理歴史科公民科 必履修科目ガイド』学事出版 2022

藤野視学官から、今年が地理総合・歴史総合元年、ここから3年が勝負であるとの話でした。3年がかりで試行錯誤してもらって、より良い授業にして欲しいとのことでした。

(5) 国立教育政策研究所『教育課程研究指定校事業研究成果報告書』

県内の実践例が集められなかったのが、国立教育政策研究所から、研究指定校の報告書が出ています。実践例は徳島県脇町高校のホームページで見ることができます。

(6) 井田仁康『地理総合のねらい』地理教材共有サイト・地理総合オンラインセミナー2022

地理総合の研究サイトで誰でも見ることができます。井田先生は筑波大の教授で、今回の学習指導要領の改定に携わった人物です。大変わかりやすい動画なので、是非ご覧になってください。

(7) 東京学芸大学先端教育人材育成推進機構高校探究プロジェクト地理歴史科ツールキット『「授業研究」の実践～北海道教育委員会の実践（2021年度）より～』

昨年度、世界史Aの中で実施した歴史総合の実践で、授業案やワークシートもついています。参考にしてください。

### 3 地理領域科目の特徴

地理Aと地理総合の大きな違いは、大項目AでGISを活用するところが大きな特徴です。地理院地図やEサットなどが学習指導要領の解説に載っています。是非アクセスして活用してください。

地理探究の教科書をご覧になって、地理Bとどこが違うのか、という印象を持った先生方も多いかと思います。あくまでも地理総合の学習を前提に地理探究があるので、地理Bとは全く別物であるという認識を持つ必要があります。

地理総合と地理探究の共通点は「ア『社会的事象の地理的な見方・考え方』に基づく学習活動の充実」と「イ『主題』や『問い』を中心に構成する学習」の展開になります。いずれも主題や問いを中心に構成する学習の展開ということです。

地理総合はGISを活用させる、例えば先日の集中豪雨について、ハザードマップを読み図し体験させるといったことが目的の一つです。自然災害と防災は非常に身近なので、地理総合では重要になってきます。地理探究は従来の系統地理や、地誌的な考察となっています。

地理的な見方・考え方を構成する5つの視点について、文部科学省や井田先生も非常に強調されている点です。「位

置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存関係」「地域」5つの視点をうまく活用して問いを立てていきましょう、という指導計画を作成することを求められています。

地理総合の指導のメインとなるのは「B(1)生活文化の多様性と国際理解」となるかと思います。この項目で「場所」と「人間と自然環境との相互依存関係」に着目して主題を設定しようと学習指導要領で示されています。

教科書編集趣意書から私が作成しました表で、各社の配当時間に対してページ数が多くなっています。B(1)で系統地理や地誌的な学習をやってしまうと、完全に時間オーバーしてしまい、最後まで進めなくなることに留意する必要があります。要点・ねらいはあくまでも「国際理解」「世界の人々の特色ある生活文化」を対象としなくてはならないということです。藤井先生も強調していましたが、中学校社会科地理的分野と繰り返しにならないように、地理総合を踏まえた上での地理探究、そこで系統地理や地誌的考察は行えるので、重複しないように、B(1)では授業の工夫が求められています。

ページ数が多いのですが、全部教えるわけではなく、生徒の実態に合わせて特色のある事例を選んでいかなければいけません。系統地理として網羅的に取り扱うわけではない、と学習指導要領解説にも述べられているので、そこを配慮した上で学習計画を作成するよう、お願いします。

地理探究と5つの視点（「A(1)自然環境」「A(2)資源、産業～A(5)生活文化、民族・宗教」「B(1)現代世界の地域区分」「B(2)現代世界の諸地域」「C(1)持続可能な国土像の探究」）でまとめました。地理探究・日本史探究・世界史探究はこれから研究が進んでいくところかと思います。

#### 4 歴史領域科目の特徴

続いて歴史領域科目です。歴史総合と日本史探究・世界史探究では科目の特徴が異なります。探究では「歴史総合を踏まえて」ということです。その意味で、歴史総合の実践が大切になってきます。探究を選択しない生徒もいるということで、総合科目は高校生にとって重要な科目となります。

歴史総合・日本史探究・世界史探究のポイントを載せたので、ご覧ください。

日本史探究だと「D近現代の地域・日本と世界」の部分が歴史総合と重なる部分なので、どのように指導していくかがポイントとなります。高教研での実践発表や研究が求められます。小学校や中学校でも日本の歴史を学ぶので、その総仕上げとして探究があり、思考力の育成がポイントとなります。

世界史探究は従来の世界史Bと似ている表現で「エ世界の歴史の大きな枠組みと展開を内容の構成」ということで、通史的な学習となっています。しかし、やはり近現代の部分が歴史総合と重なり、歴史総合は世界史的な事項が多い科目なので、歴史総合と世界史探究が重なる部分を皆さんで情報共有できれば、と思います。

共通するのは「ア『社会的事象の歴史的な見方・考え方』に基づく学習活動の充実」「イ『主題』や『問い』を中心に構成する学習の展開」「オ資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習」です。

「ア見方・考え方」とありますが、「解説」p124に5つのポイントが示されているので、後でご覧ください。考える際の方法で、生徒自身も言語化できないまでも、既に持っているものと思われます。「⑤現在とのつながりなどに着目して、比較したり、関連させたりして社会的事象を捉えること」の部分が主体的な学びに向かう態度の評価として重要な部分です。「解説」にはそのまま授業で使えるような問いが載っているので、ご覧ください。

ICT活用と関連して、デジタルアーカイブが非常に充実しているので、是非とも活用してください。まずは使ってみて、生徒に実際の史料に触れさせることが必要かと思います。

「国立公文書館デジタルアーカイブ」「アジア歴史資料センター」「津軽デジタル風土記」など。

指導と評価の一体化がキーワード、単元デザインが重要になってきます。世界史では大項目ごとに単元をデザインしていくことが提唱されています。大項目Aで私たちの生活に身近な地域から歴史を考えていく授業をつくる、などです。

大項目BからDで共通するのは、中項目(1)で大項目を見通した問いを表現することが求められています。生徒が問いを表現するとは何か、資料から興味・関心を持ったことを文章化するという学習活動です。中項目(2)(3)では生徒が表現した問いをもとに、教員が主題を設定して、資料を活用して生徒が考察するという学習展開が求められます。

留意事項として、学習の連続性という意味で、ますます中学校社会科の先生との連携が必要となります。中学校の教科書は意外と細かいところまで網羅されていますし、観点別評価も進んでいます。また、歴史総合の場合には、主題を設定しなくてはなりません。用語を覚えるのではなく、用語の結びつきを重視して扱うのが歴史総合で強調されるところです。

解説のp186「ひとまとまりの内容の焦点となり、歴史の展開を大観する上で柱となる事柄に着目」とは、歴史総合で



は近代化、大衆化、グローバル化の3つに着目して学習を展開していくということです。

教科書編集趣意書から表を作成しましたが、近現代は29時間で100ページ近くなど、網羅的に進めると間に合いません。主題を設定して教えていく、指導の工夫が求められます。

中項目(4)でそれぞれの大項目を振り返り、Dでは歴史総合全体を振り返ります。

## 5 観点別評価

地歴公民科は、他教科にはない評価の形です。「学習改善につなげる評価」→●「評定に用いる評価」→○、○をいかにつなげていくか、そのためにはICTを活用することが必要です。毎時間評価するのではなく、この部分は●とすれば、ABC付ける必要はなく、ワークシートを見て生徒に声がけするだけでも評価ということになるので、そこに留意して評価の計画を作成してください。

地理総合について、主体的な態度を評価することと、思考力・判断力を評価することは不可分なので、やっかいです。単元全体に関わる問いとして、「GISを使えばどのようなことが分かるだろうか、また、地理情報を効果的に伝えるには、どのような方法が適切だろうか」という問いを生徒に提示します。生徒に考えてもらったことが単元の最後にどのように変容したか、次への、授業する前の生徒の予想がどのように変容していくのか、これを蓄積して評価しよう、ということです。

歴史総合については、大項目が大単元になり、単元計画を作成します。さらに中項目を、小項目を構造化した小単元に分割するということです。ここについては学習指導要領解説を読み込んでいかなくてはなりません。

「主体的に取り組む態度」の評価については、近代化への問いをまず立ててもらい、その変容を(4)で読み取る、と。途中でも問いを見直させて、(4)小単元6で評価する。(参考資料p95)問いを表現すれば、(1)評価規準となっているので(思考・判断の●)、(2)(3)で確認しながら、「学習の見通し」とありますが、仮説ですね、この変容を小単元6で見取る、参考例です。現代社会とのつながりということで、「現代社会まで続いている」という認識があれば、「おおむね満足できる」ということで評価はBとなります。

これから教科会議の重要性が高まってきます。自分一人ではなく、チーム学校として単元計画を作成してください。

【 日 本 史 分 科 会 】

研究発表

「

」

発表者 青森県立七戸高等学校 原 郁 美



研究発表

『歴史総合』における指導と評価の一体化に関する実践考察

発表者 青森県立三戸高等学校 赤 井 翔 太

今年度、高教研総合大会の分科会で発表予定であったが、大会直前に新型コロナウイルスに罹患し、発表はかなわなかった。総合大会での発表内容は、総合大会直前の高教研三八地区での発表を踏まえ、さらに内容を精選していたので、非常に心残りであった。この研究紀要に、発表予定であった内容を掲載させていただけることを感謝したい。



発表スライド



配布資料(具体例)

1 はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大により、急速に1人1台端末導入およびICT活用教育の推進がなされた。今回の発表では、発表スライドをQRコードで端末から見られるようにし、発表後Googleフォームで意見や質問を受け付け、それをもとにさらに改良した内容を見られるようにする試みを行った。これにより配布資料を少なくして保管しやすく、かつスライドURLさえ分かればどこでも見ることができることを目指した。また、この研究紀要において、具体的な指導案や学習プリントなどを掲載することはページの都合上難しいため、これらの資料も右上のQRコードからドライブ上で見られるようにする。なお、スライドの途中に授業の動画を組み込んであったが、この授業動画については見られない設定にした。気になる方は、私まで直接問い合わせいただければ対応させていただく。

ICTの動きと並行して、今年度の入学生より新学習指導要領での指導が始まった。新たな科目である「歴史総合」に、さらに評価項目の改定と観点別評価A・B・Cの明示が求められることとなった。個人的には、評価項目の改定と、そのうちの1項目「主体的に学習に取り組む態度」の評価、そして生徒を評価するにあたり、指導のPDCAサイクルをつくり指導のさらなる改善をはかる「指導と評価の一体化」が、自己の指導を顧みて確立されていないと感じた。そこで、今回の発表を、これまでの教員生活9年間の指導をもう一度見つめ直し、新学習指導要領に合う形に再構築する機会ととらえ、研究した。

2 新学習指導要領と自身の教育哲学 ～指導と学習評価の核～

「指導と評価の一体化」を進めるにあたり、まずは新学習指導要領と、私自身の教育哲学とのつながりを再認識することから始めた。私は歴史を学ぶ意義として「人間を知るために歴史を学ぶ」ことを生徒に伝えている。歴史とは、過去の出来事を人間が便宜上年代や時代ごとに区分し、当時の社会状況を捉える学問である。重要なのは、便宜上区切っているが、あらゆる歴史は現代におけるすべてにつながっているということである。と、私の持論を述べたが、歴史を学ぶ意義は各教員で同じである必要はない。ただし、重要なのは、その教育哲学が果たして学習指導要領に与しているかどうかである。

今年度から始まった新学習指導要領での地理歴史・公民科の目標は「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力」を育成することであり、歴史科目では「歴史的な見方・考え方を働かせ」て(1)知識及び技能が習得されるようにする。(2)思考力、判断力、表現力等を育成する。(3)学びに向かう力、人間性等を涵養する。この(1)～(3)をとおして、上記の資質・能力を育成することが求められている。

そこで、私は「指導と評価の一体化」における指導の核となる部分を、「生徒の言葉・表現での説明」することに設定した。指導の構想において、まず第一に考えたいことは、生徒自身に教科書・資料集から読み取らせ、言葉・表現を引き出すこと。次に、教師が説明する場面でも、中学生でも分かる具体例を心がけることである。海外の研究において「多様性のある会社ほどよりイノベティブであり、イノベティブであるほど、リーダーシップは、多様性に

富む」そして「多様性のある企業が、非常に高い生産性を挙げている」ことが分かっている。(参照：TED TALKS ” How diversity makes teams more innovative” Rocio Lorenzo) したがって、各生徒から多様な解釈・説明が生まれ、それらを共有し、生徒自らが最も理解しやすい形で学習できるよう選択肢を持つことができる状態にする指導を目指し、授業改善をはかることで、新学習指導要領の目標を達成することを心掛けるようになった。

### 3 指導と評価の一体化の実践考察

指導と評価の一体化の実践考察にあたり、講義式、一般的な主体的・対話的で深い学び、そして私が入れている「学び合い」のそれぞれを実践・分析した。ここでは、「主体的に学習に取り組む態度」をどのように評価するかをテーマにしている。紀要には概要のみ掲載するため、具体例はQRコードの資料を参照してほしい。

#### (1) 講義式

##### ① メリット・デメリット

| メリット                                                                                                                     | デメリット                                                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・事前に準備した内容を伝えることができる</li><li>・確実に活かせる情報を伝えられる</li><li>・問いの工夫で、思考させることも可能</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・生徒が受け身となる → 主体性をどう評価するか</li><li>・表現が、教員の提示するものしかない<br/>→ 多様性に富んでおらず、私の指導の核にかなわない</li></ul> |

##### ② デメリット解消への模索

- ・振り返りを書かせ、その内容を共有  
→ 主体的に授業に参加し、その内容を踏まえて書けているかを評価する。  
記述内容を次の授業で共有することで、各生徒による多様な表現から学ばせる。

##### ③ 評価方法の課題

- ・振り返りの評価…基準作りが難しい。生徒の語彙力、理解力がバラバラであり、どのレベルに基準を合わせるかが難しい。記述の量と質をどのように評価するかも難しい。
- ・思考力・判断力・表現力の評価をするなら、事前に生徒に評価基準を伝えることが必要である。

##### ④ その他の課題

- ・評価、支援したいのに生徒一人ひとりに目が行き届かない。
- ・時間的に、記述を見る時間の不足。
- ・講義中に1人ひとりの動作を見られない。

#### (2) 一般的な主体的・対話的で深い学び

##### ① メリット・デメリット

| メリット                                                                                                                                                                    | デメリット                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・入念な準備により、指導と評価の一体化が可能</li><li>・グループ活動による協同・協調も学べる</li><li>・机間巡視による指導の余裕<br/>→ 1人ひとりをきちんと見取ることが可能</li><li>・学習内容が頭に残りやすい</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・時間がかかる（進度の遅れ）</li><li>・特定のできる人に依存</li><li>・数時間、そのグループの人としか関わらない<br/>→ 1人ひとりの評価をどうするか。自ら学習を調整しようとする側面をどのように見取るか。</li><li>・主体性や技能、思考力・判断力・表現力はその1回のみで身に付くのか</li></ul> |

##### ② 評価方法の課題

- ・数時間、そのグループの人としか関わらない  
→ 1人ひとりの評価をどうするか。主体性評価のうち「自ら学習を調整しようとする側面」をどのように見取るか。
- ・主体性や技能、思考力・判断力・表現力はその1回のみで身に付くのか…継続的な指導の難しさ

##### ③ その他の課題

- ・そもそも…こんな授業を計画し、実施して評価する時間がつかれない

### (3)『学び合い』

『学び合い』とは、西川 純 先生（上越教育大学大学院 学校教育研究科教授）提唱の授業方法である。『主体的・対話的で深い学び』のデメリットを解消するうえで、この方法は非常に有効であると考ええる。

『学び合い』の導入自体は楽であるが、しっかりと西川先生の著書で理論を理解したうえでの導入をお薦めする。

『学び合い』の導入事例は文面での説明が難しいため、ぜひ配付資料のQRコードで実際の授業プリントや評価方法を見ていただきたい。

#### ①『学び合い』のメリット

- ・主体性評価に効果的…教員は見守り役 兼 評価者に徹することが可能
- ・資料読み取りの技能について、できる生徒はすぐにできる点を生かして、支援が必要な生徒へできる生徒がマンツーマン指導にあたる。その際、使う語彙、表現が生徒レベルであるため、教員の説明がわからない生徒に特に効果的である。
- ・そのため、ハイレベルの生徒は説明する・伝える力をつけられる。支援が必要な生徒は理解できるまで聞ける。
- ・全員が課題についてある程度理解できたうえで、評価をすることが可能となる。

#### ②『学び合い』のデメリット

- ・評価規準→課題作成に苦勞する。課題のレベル設定を間違うと誰も理解できず終わることもある。
- ・知識量を増やす指導方法としては向かない。

#### ③『学び合い』のデメリットの解消

- ・課題作成には、学習指導要領と自身の教育哲学が欠かせない。  
→その授業で身につけさせたい、指導したいことをきちんと明確化する。それが評価ポイントとなる。
- ・知識量を増やすには繰り返し学習すること。そのためには興味・関心を引くこと  
→繰り返し学習できるようにする工夫として端末・スマホのアプリを活用。  
『学び合い』でより歴史に関心を持ってもらおう仕掛けづくりをする。

### 4 終わりに

ここまで私の拙い作文を読んでくださった方々に敬意を表する。そして、ここまで時間と労力と時間を割いていただけののであれば、ぜひQRコードの資料にも目を通していただければ、私のこれまでの実践・具体例があるので時間・労力の無駄になることは避けられると考える。

指導方法が多様化し、また今回の改定でさらに難しくなる教科指導の一助になれば幸いである。

## 【 地 理 分 科 会 】

### 研究発表①

# 「1人1台タブレット端末導入初年度の授業実践について 『地理A』 」

発表者 青森県立五所川原農林高等学校 舘 田 智久子

本校は4学科ありますが、地歴公民科の履修については学科共通で、各教科2単位となっています。これまで、学科それぞれの専門分野の履修とともに、普通教科については基礎学力を身に付けるため、1年生では現代社会、2年生では地理、3年生では一般常識など多岐な進路に対応するため世界史と政治・経済を履修しています。

新課程に対応するため令和4年度入学生から現代社会に代わり公共を履修することになりました。来年度からは歴史総合を2年生で、地理総合を3年生で履修することになります。数年間授業を行ってきて授業時数と学習内容のバランスを考えたとき、3年生で政治・経済、世界史Aを学ぶことは詰め込む知識量が授業時数の割に多くなってしまい、学習効率も中途半端になっていました。農業高校ということで学科それぞれの専門知識に加え、公務員希望者が毎年一定数いるので、普通教科も相応の知識を身に付ける必要があります。その点で、歴史分野の学習は時間がかかることから2年生で歴史総合を履修することに変更しました。

現在地理Aと世界史Aを担当する私自身の取り組みとしては、ICTの活用をできることから進めていくことが重点となります。生徒にタブレットを使って学習に主体的に取り組むきっかけづくりができれば、一人一台への対応がスムーズになると考えました。

昨年度はコロナ禍でオンライン対応をする必要が増え、オンラインでの授業経験がない私は個人的な焦りがありました。また、現状として校内のデジタル環境については知っている人は使っている、知っているけれどできれば使わずにやりすごしたい、操作ができないし面倒だから使いたくない…という教師側の実態、Google Workspaceの運用、タブレットは80台ほどしかなくまだ全員分揃わない、令和3年度より校内分掌のひとつにICT推進委員会が新設され、私もその一員になったこと…という要因から、ICT機器の運用やオンライン対応を実践する場面が増えました。

まず「生徒全員がタブレットをつかうこと」に重点をおいた授業を企画しました。私自身がコーヒー好きということもあり、『コーヒーで読み解くSDGs』という著作との出会いがきっかけとなり、コーヒーを授業で取り上げることになりました。昨年度は校内研修で地歴公民科が研究授業を行うことになっていたのも、対象を2年生、地理Aの授業に設定しました。現在は一人一台タブレットが使用でき、各教室に保管していますが、昨年の11月現在では2クラス分しかなく、保管場所が教室から離れていたため準備と後片付けに今以上に時間がかかることからTTで役割分担をして授業しました。教材として海外の食材やコーヒーを販売している店舗で取り扱っている「ウーマンズハンドフェアトレードブレンド」など三種類のコーヒーを使用し、地図で読み解く地球的課題のテーマ学習として「フェアトレード」・「SDGs」を紐付けた学びを試みました。生徒が教室で同時にタブレットを操作したときにフリーズなどのトラブルが起きることを想定し、トラブルが起きた場合の代替教材としてスライドがすぐに提示できるようモニターが起動する視聴覚教室で授業を実施しました。検索するサイトを指定し設定した時間内に情報を得る発問を準備し、指示役の教師がタブレット（検索サイト）とPC（スライド）を交互にモニターに表示し、補佐役の教師が机間指導しながら生徒の活動状況を確認していきます。コーヒー生産地の位置・緯度など地理的特徴や、コーヒー豆生産量世界1位のブラジルには間帯土壌のテラローシャが分布していることを復習しながら、実際にコーヒーを飲んでみたい生徒にすすめて味の感想を聞いてみたりコーヒー豆という作物を見たことがないなどの気づきを得てもらえるようにします。その上でフェアトレードという取引のありかたを知り、SDGs達成につながる活動であることにも気づくことができれば「生徒が主体的に学ぶ」授業が成立すると考えました。授業では教室の後ろがいつぱいになるほど多くの先生方が見学くださり、教師側のICT活用への興味関心が実際には高いことがわかりました。一番の懸念であった一斉操作による根本的な動作環境の問題はクリアできました。更に研究授業の後、コーヒーつながりで世界史Aおよび政治・経済を学ぶ3学年対象にUCCホールディングスによるSDGsオンラインセミナーを依頼、全クラスで実施することができました。今年度は同社からESD探究プログラムの教材を提供いただき、3学年世界史Aで実践中です。地理の知識を歴史につなげ、地政学的アプローチを試みています。

現在は教師および生徒に一台ずつiPadが貸与されており、校内での利用規約も整備されています。教室にプロジェクターが設置されマグネットスクリーンも付設されたので、できるだけ毎時間タブレットやデジタルコンテンツを活用しています。Google mapsで自分の家の周辺を確認できたら、自分が住んでいる地域のハザードマップを検索し、自宅周辺がどんな危険災害がおきるか確認（確認作業を進める中で生徒はZenly（ゼンリー）といったコミュニケーションアプリを日常的に使っていることなど私には予想がつかないつながり方を知ることができ、授業をする側としては参考になる発見でした。）したり、国土地理院の地形図で学校を中心とした地図を検索し、周辺の地形を理解するために地図記号を調べ、扇状地からひろがる平野に位置していることがわかったことで、河川が形成する地形の理解を深め教科書の内容を理解することができました。生徒はテレビよりもInstagramなどのSNSやYouTubeが主な情報源の世代なので、視覚的情報をとらえるのは慣れており、授業の導入や資料の1つとしてNHK for Schoolの地理に関する動画コンテンツを提示すると反応がはやく、全員が授業に参加できる雰囲気が高めることができます。

今後の課題は、デジタルツールの操作に苦手意識が高く授業スタイル（板書）を変えることに抵抗がある教員が授業での有用性を実感できれば、タブレットも身近なツールになると感じています。ICTの校内研修は教務部主体で実施中ですが、新課程への移行にあわせ教科内で情報交換するなど研修の場を設ける必要があると感じています。今後もタブレットを「使うこと」を授業目的とするのではなく、主体的な学習活動につながるツールのひとつとして使うというスタンスを大事にし、教科書や地図帳、図表といった紙ベースの教材も併用しながらも、引き続き前向きな試行錯誤を続けていきたいです。



## 研究発表②

### 「地理総合の授業実践 ―地理と歴史・地域を総合する「防災」について―

発表者 青森県立弘前中央高等学校 石戸 康幸

#### 1. はじめに

今年度より「地理総合」がスタートしたが、これは、これまでの旧カリキュラムの世界史必修から、事実上の地理必修化への転換ということになる。地理歴史は歴総・地総の二本立てから探究が分かれていくことになり、各校、地理総合を避けて通れないことになった。これまで、地理歴史とは言いながら、私を含めた歴史系の教員はほとんど日本史と世界史のみを教えてきたのではないかと思われ、今回、西北地区にも呼び掛けてこのような実践報告という形を提案したのは、そのような歴史系教員が初めて（久し振りに）地理を担当する、あるいは予定がある、というときに少しでも役に立つことがあればと考えた次第である。

また、これからどんどん出番が増えるであろう地理系の先生方にとっても、これまでのAB科目でだいたい2年生ではここまで、3年生はここから、などと大体流れが決まっていたものを、新たに追加された要素に注目し、考えるきっかけになれば幸いである。今回の授業実践を集めるにあたり、青森県立弘前南高等学校の三上由美子先生にはご協力をいただいた。この場を借りて改めてお礼申し上げたい。

#### 2. 新要素「防災」

新科目「地理総合」と従来の「地理A」の違いこそが、新しい科目にする意味だとするならば、私たちは当然のことながら、新たに加わった要素に注目しなければならない。

新しい要素は、

- ① 地図・GIS
- ② ESD (Education for Sustainable Development) 「持続可能な開発のための教育」
- ③ 防災、の三つである。

ここでは、①GISと②ESDを踏まえた上で、それを組み合わせて学ぶ③の防災こそが東日本大震災を経験したあとに構想された地理総合の導入目的でもあると考え、防災の要素に着目した。

#### 3. 「地域防災」

4月から本校に赴任し、新科目「地理総合」を担当してきた私は、夏季休業に入る前にどうしても触れておきたい内容があった。それが、「地域防災」のハザードマップの見方・活用である。

私や生徒が住んでいる弘前市を中心とする津軽地方は、これまでに何度も豪雨や洪水の被害を受けており、それは、9月の台風シーズンに限らず、ちょうどねぶたまつりが開催される8月上旬であることが多かったためである。私が生まれる前後の約45年前だけではなく、生徒たちが生まれた後の2013年、2020年にも集中豪雨の被害が起きている。7月最後の授業は、そのことに触れたい。もしそのようなことになった場合にはぜひハザードマップを活用し、命を守れる人であってほしい。そのように考えて、教材研究・準備を行った。

#### 4. 弘前市を中心とした津軽地域

とはいっても、私が生まれた頃の話といえば、現在高校一年生の生徒にとってみれば、両親の生まれた頃の話、昔々の話になってしまう。映像や資料も古く、生徒の印象としては弱い。

そこで、生徒にとって記憶のあるところ、2013年（平成25年）と2020年（令和元年）の弘前の集中豪雨や、大きな被害で話題となった熱海の土石流の話題を交えて、授業を組み立てることにした。その際には、地元に密着した活動が続いている「弘前経済新聞」や地域のコミュニティFM局である「アップルウェーブ」、そして丹念に地元の題材について取材や調査活動を行っている方々のお世話になった。

文字だけより写真、写真だけより動画、臨場感溢れる映像は、何より災害の恐ろしさを伝える力があつた。

## 5. ICT活用の取り組み

本校は昨年度よりタブレット（iPad）を生徒全員に配付し、授業の中で活用する取り組みを始めていた。前任校では今年度より配付予定であったため、私自身にタブレットを活用して授業をした経験がなく、4月当初は大いに苦勞したが、授業実践の頃には少しは慣れてきていたので、資料をロイロノートで配ったり、プロジェクターで動画を見せたり、生徒のタブレットで「重ねるハザードマップ」を開かせ、自宅のところを調べて危険について考えさせたり、ロイロノートで「地域防災シート」を回収することができた。

## 6. 授業を終えて

振り返りシートとしての「地域防災シート」の回収の結果、ひとクラス分ではあるが、高校生の率直な意見と現状認識を知ることができた。

- 質問①：あなたは2020年9月4日の集中豪雨のことを覚えていますか。（ はい：12 いいえ：22 ）  
質問④：あなたは2013年9月16日の洪水のことを覚えていますか。（ はい： 1 いいえ：33 ）  
質問⑦：熱海の土石流について、ニュース等で見た記憶はありますか。（ はい：18 いいえ：16 ）  
問題⑧：昭和50年百沢土石流・水害について聞いたことはありますか。（ はい： 5 いいえ：29 ）  
問題⑨：自然災害伝承碑の所在地、示現堂（慰霊堂）を知っていますか。（ はい： 2 いいえ：32 ）  
問題⑩：昭和52年水害について、話を聞いたことがありますか。（ はい： 3 いいえ：31 ）  
問題⑪：新寺町稻荷神社裏の寺沢川最大水位の看板を見たことは？（ はい： 3 いいえ：31 ）

そして8月、私の心配は現実のものとなった。津軽地方は青森県初の線状降水帯が出現し、岩木川は氾濫の危険が高まり、弘前市も岩木川沿いの9地区が警戒レベル5（黒）の緊急安全確保が出され、本校も避難所となった。緊迫した事態が続く中で、防災の授業を受けた女子生徒が家族とともに避難してきた。同様に避難してきた他の本校生徒と協力して避難所の受付をボランティアで行っている彼女の姿を見て、これこそが、「地理総合」を学習する意義（ハザードマップを活用し生命の安全を守る）なのではないだろうかと思った。

参考資料：

青森県 … <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/kasensabo/>  
重ねるハザードマップ … <https://disaportal.gsi.go.jp/maps/>  
国土交通省 … 岩木川の主な災害 日本の川ー東北ー岩木川ー国土交通省水管理・国土保全局 [milt.go.jp](http://milt.go.jp)  
国土地理院 … 自然災害伝承碑（令和に追加された最も新しい地図記号） [gsi.go.jp](http://www.gsi.go.jp/KIDS/map-sign-tizukigou-h05-01-19hakubutukan_00001.htm)  
[http://www.gsi.go.jp/KIDS/map-sign-tizukigou-h05-01-19hakubutukan\\_00001.htm](http://www.gsi.go.jp/KIDS/map-sign-tizukigou-h05-01-19hakubutukan_00001.htm)

弘前市を中心とする地域の近年の気象災害

2020年9月4日

「弘前で地元観測史上最大降雨記録 市内各地で道路冠水」 <http://hirosaki.keizai.biz/headline/1544/>

⇒1977年（昭和52年）8月5日に発生した63ミリを大きく塗り替える雨量

2021年7月3日

「防災マップの見直しを呼び掛け 防災意識を平時から」 <http://hirosaki.keizai.biz/headline/1728/>

⇒2021年7月3日に静岡県熱海市で発生した土石流災害を受けての記事

⇒1975年（昭和50年）8月6日未明に発生した集中豪雨による百沢土石流

弘前市を中心とする地域の以前の気象災害

昭和50年（1975年）土石流および水害

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/kasensabo/houhou.html>

<https://www.youtube.com/watch?v=gQjWeZJIJDE>

昭和52年（1977年）水害

誰も紹介しない津軽 土淵川放水路 - 誰も紹介しない津軽 (fc2.com)

<http://dsntsugaru.blog.fc2.com/blog-entry-189.html>

## 【 公 民 分 科 会 】

### 研究発表

# 「公民科授業のICT活用」

発表者 青森県立青森南高等学校 沼澤 豊 起

## 1. はじめに

文部科学省は令和元年度に GIGA スクール構想を発表した。この中で令和5年度までのあいだに、全国の希望する小・中・特別支援・高校に、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するとされている。また、当構想を紹介するホームページには文部科学大臣のメッセージが掲載されており、その中では「Society5.0時代に生きる子どもたちにとって、PC 端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテム」であり、「これまでの教育実践とICTのベストミックスを図り」、「ICTの導入・運用で授業準備や成績処理等の負担軽減に資する、働き方改革」にもつなげることが表明されている。

これを受けて、県教育委員会でも令和3年度から「高等学校におけるICTを活用した確かな学力向上事業」が行われている。この事業は「ICTを活用した各教科の授業改善や教科外の教育活動を充実させ、確かな学力の向上や自立した人材の育成を図るため、全ての県立高等学校においてICT活用のための推進体制を構築し、実践研究や事例を蓄積・共有するシステムを構築する。」事を目的とし、県内各校に高速通信ネットワーク（ao-giga）及びICT機器が導入されることとなった。

本校に導入されたICT機器等は、次の通りである。タブレット700台(windows560台・iPad140台)、据付プロジェクタ(20台)、ao-giga アクセスポイント(44カ所)、電子黒板(3台)、Google ワークスペースの導入。

本校では令和4年度からこれらの機器及びネットワークが本格的に稼働し、筆者も担当する公民科の授業において、ICTを活用した授業に取り組むこととした。

## 2. 学力の向上に向けた授業改善及び教員の負担軽減について

### (1) ICT活用のメリット

当初、ICTの活用によって「出来るようになる点」あるいは「良い点」と考えていたのは、次のような点であった。

- ①生徒が使用するワークシート等を投影することで、生徒が現在どの部分を授業しているのか迷子にならず、授業中の指示も伝わりやすいのではないか。
- ②Google ワークスペースのJamboardやドキュメント等のアプリは「変更履歴」を残し、過去の編集過程を独立したファイルとして保存することが出来る。この機能を活かして生徒の変容過程を可視化できるのではないかな。
- ③生徒による授業評価や自己評価の集計、小テスト等の採点・集計作業を自動で行うことによって、授業の効率化や教員の負担軽減を図ることができるのではないかな。
- ④課題や練習問題等を、クラスルーム内のGoogle ドライブに保存することにより、教員の印刷・配布等の負担軽減を図ることができるのではないかな。

### (2) 筆者自身の授業の課題

筆者自身が考える自身の授業の課題については、以下のような点がある。これらの課題について、上記(1)にあるメリットを活かして改善を図りたいと考えた。

- ①生徒が主体的に考察する(探究する)機会が少ない。
- ②小テスト等による学力変容の把握や、面談等による意欲・主体的な活動等の把握等、多面的な評価に資する評価材料が不足している。
- ③口頭による説明が冗長で、一つの事項に関する説明に時間がかかりすぎている。

### (3) 青森南高校公民科の実践及び実践予定

#### ①授業中に私用する資料の提示資料の表示・検索

タブレット端末で資料を拡大縮小・書き込み等できるため、わかりやすく提示できる。資料集の図版等もタブレットのカメラで撮影し提示している。

## ②テスト範囲や参考 URL 等の周知

Google クラスルームのストリームを使用し、重要事項の周知を行っている。生徒は自宅でスマートフォンでも確認できる。

## ③課題の配布

Google クラスルームの Google ドライブを利用して課題・解答例等の配布を行っている。ただし、課題や過去問等については、紙媒体を求める生徒が多いため、印刷物の配布も行っている。

## ④小テスト

Google フォームを利用して実施するつもり予定だったが、Google フォームでの小テストの作成（問題の打ち込み）が予想以上に手間がかかる。今後、問題を紙媒体で配布し、回答のみ Google フォームで集計するように変更する予定。

## ⑤参議院選挙に向けて

生徒が各自の 1 人 1 台端末を活用し、次の活動を行った。

ア. 新聞記事を読み選挙の意義を考察

イ. ダイヤモンドランキングで自己・多様な価値観の確認

Google ワークスペースの Jamboard アプリを利用して、自身が何を重要と考えるか検討させた。その後、他者のダイヤモンドランキングも見ながら意見交換し、多様な価値観の受容について理解を深めた。

ウ. 公約まとめサイト、政党公式サイトを活用し、自己の考えにマッチする政党を検討

インターネット上の公約まとめサイトやマッチングサイトを活用し、イ. で検討した自身の価値観にマッチする政党を検討した。

オ. 授業自己評価

参議院選挙に向けた授業を受けての感想、選挙及び政党に関する理解度等の自己評価を、Google フォームを利用して提出・集計した。

## 3. 授業以外での活用

### (1) 新型コロナウイルス対応

①自宅待機となった生徒への、Google クラスルームを利用した課題配布

②濃厚接触者となり自宅待機となった教員による、Google クラスルームを利用した授業動画の配信

### (2) 行事の映像配信

①体育館から各教室への行事・儀式等の配信

## 4. ICT活用の所感

概して、スライドや動画を活用した授業は生徒の興味関心を引き、学習意欲の向上に寄与する。そのため、これまでもスライドや動画等を活用した授業を行ってきたが、授業のたびにプロジェクタを運び、教室に設置されたスクリーンが波打っている場合はスクリーンも運び、電気ドラムを抱え、授業道具を持ち、さらに教室では生徒の机を寄せてプロジェクタの角度を調整し…と、労力と時間がかかるものであった。この点において、教室にプロジェクタが設置され、小さなタブレット端末を持って行くだけで、ICTを活用した授業を行えるのは、教員の負担軽減には大変有効である。また、授業の前後にある様々な準備事項や手続き事項について、アナログからデジタルに変換することなく、当初からデジタルでデータを集め処理できることも、業務の効率化に大いに効果的である。

この様な授業を続けることで、生徒の学力向上につながるかは、評価するための材料がまだ出そろっていないため、今後の判断となる。生徒の授業評価によれば、学習意欲の向上や理解の深まりについては好意的な意見が多い。

ただICTを活用した授業について、全くトラブルなく授業が終了したことはない。特に1人1台端末を利用して生徒各自が入力したり検索したりする場合は多くのトラブルが発生し、その対応に時間がとられる。特に多いのが「インターネットに接続できない」トラブルである。その場合、生徒のスマートフォンを利用することもあった。スマートフォンはほぼトラブルレスである。現状、生徒にとっての「鉛筆やノートと並ぶマストアイテム」はPCではなくスマートフォンであり、生徒はスムーズに作業をこなすことが出来る。各家庭が契約するスマートフォンを授業で利用するのは、セキュリティや費用の面で多くの問題をはらんでいるが、Google クラスルームはスマートフォンでも利用できるため、帰宅後課題に取り組み提出するなど、生徒それぞれの学習でスマートフォンの活用を検討することも必要なことではないだろうか。

ICTを活用した教育活動が今後さらに普及するためには、とにかく多くの教員・生徒が使用することが重要である。

その中で課題が見つかり改善されていく。しかし、トラブルへの対応や新たな教材の作成など、授業実施に向けたハードルを高く感じる教員も多いと思われる。このハードルを下げるためには、教員がとにかく簡単な事柄から端末を使用し、鉛筆の持ち方のように体になじむまで使用することが重要だと考える。